



学校だより

学校教育目標

11月号(第562号)

令和4年10月31日

横浜市立すみれが丘小学校

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづけるすみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

子どもたちが生き生きと学ぶために

副校長 阿部 一平

学校の職員玄関に入ると、すぐにお花を生けてあることに気付かれていた方もいらっしゃると思います。実はこのお花は支援員の方が季節ごとに生けてくださっています。(学校のHPでも写真が載せてあります。) 無機質な空間でも一輪のお花が添えられているだけで、心がなごみ季節を感じます。先日その支援員さんが、とっても嬉しそうにこの生け花にまつわる子どもたちのお話を教えてくださいました。とてもほほえましいお話でしたのでご紹介します。



それは、玄関にリンドウのお花が生けてあった、まだ子どもたちが半袖姿だった9月の終わり頃のことです。2年生の子どもたちが生けてあるリンドウの周りに集まってなにやら話し込んでいたそうです。聞き耳を立ててみると、「このお花は生きているのかな?」「生きているにきまっているじゃない。だって青いお花がちゃんと咲いているよ。」「そんなはずないよ。このお花は“はり”にささっているから、生きているはずないよ。」

きっと最近は剣山を目にするのも少ないのでしょう。針にささったお花がかわいそう…。そんな声が聞こえてきそうでした。その支援員さんからこのお話を聞き、なんとも子どもらしい発想のかわいらしさとおもしろさに思わず顔がほころんでしまいました。

今、学校では、子どもたちの学び方が大きく変わってきています。ひとことで言うと、「何を学ぶか」という視点から「何をどうやって学ぶか」という視点への転換です。「主体的・対話的で深い学び」などという言い方もします。こうした中で、本校でも子どもたちが「主体的・対話的で」なおかつ「深い学び」を実現していくために、授業を通じて研究を行っています。(学校では重点研究と呼び、本校では今年度から算数科を通して教師同士の学び合いをしています。)

ある日の1年生の算数科の授業でこんな場面がありました。「12-2-1の計算の仕方を考えよう」という内容です。さて、この授業、どうしたら子どもたちは「主体的」に学べるでしょうか。このままの課題をそのまま伝えても、算数が苦手な子だと考えるのも億劫になってしまいそうです。

1年生の先生は、この課題をこんな風に教えていました。まず、授業の冒頭で、子どもと対話しながら

$$12-2-1=9$$

10

$$12-2-1=11$$

1

とおもむろに板書しました。

「あれれ、どうして答えがちがっちゃったんだろう。バスに乗っているヒヨコさんの場面で考えてみようか?」先生の問いかけに、子どもたちは身を乗り出します。その後、子どもたちは、バスに乗っているヒヨコさんが順にバスから下りていくことを皆で説明し合いながら、結果として計算は左から順にやらないといけないことをきちんと掴むことができました。

冒頭の剣山に刺さったリンドウの花のときの会話のように、子どもたちの興味関心はきっかけさえつかめればどんどん膨らんでいきます。「どうしたら子どもたちが生き生きと学んでいけるだろうか…。」これは学校にとっての永遠のテーマですが、すみれが丘小の職員室では、ベテランの先生も若手の先生も一緒になって、今日も一生懸命考えています。